10131

慢性的な渋滞が起こるダッカの路上は、目の不自由な少女にとっては好都合。片腕に束ねているのは幼児用英単語学習絵本。押し売りというより、静かに佇んでいた。買う気がないと分かっても、バスが動くまで離れなかった。

10131

ダッカ中心部から少し離れた、広大なゴミ捨て場。子どもから大人まで、多くの者達が少しでも使える物を探している。背後には、不気味なカラスの鳴き声と、都会のビルの陰。目の前は暗くても、顔を上げたその先には明るい未来が待っているのだろうか。

10131

たまたま通りがかった路上で、驚きの光景が繰り広げられていた。前日の雨で作られた水たまりで洗っている物は･･･。近くのごみ置き場から拾った、使用済みの注射容器やチューブ。若者達は屈託なく、洗浄して売りに出すと言う。

10131

多くのストリートチルドレンに出会った。アイコンタクトで会話すると、みんな元気で、写真を撮ってくれとせがむ。この男の子は、「マニー！」「フード！」を連呼していた。戦後の日本も同じような光景があったのだろうか。

10131

北部の農村の子どもたち。珍客に大騒ぎ。すぐに友達になった。このいたずら少年と取り囲む仲間達の瞳に、バングラデシュに潜在する明るい希望を見た。ずっと笑いが絶えなかった。

10131

農村の広場で行われている女性達の週一回の集会。マイクロクレジットにより、母は子どもの教育費を貯めている。自立のために、学校でも学べないことを母はこの場で教えてもらえる。母だけでなく、少女達にも皆、夢があった。

10131

体育専門のエリートを育てる国立の学校。ここから、オリンピック選手は輩出される。男女同じ教室で学ぶが、座る席は分かれていた。右の女の子はバッヂにある通り、アーチェーリーで世界を目指す。

10131

日本人が路上で子どもたちに青空教室を始めたのがきっかけだった。その内の何人かはボランティアと一緒に、共同生活を始めた。向上心と大きな夢がある、将来が楽しみな子どもたち。映画にも出演済み。